

わくわく!ふくいっ子



R8.2.9 文責 福井小学校長 鶴本正道

「見えないバトン」がつながって ～世界を回す、一人ひとりの役割～

連日寒い日が続いていますが、保護者の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

最近、ふと立ち止まって考えることがあります。それは「世の中は、誰かがどこかで自分の役割を果たしているからこそ、今日も無事に回っている」ということです。

○当たり前の中に隠れた「誰か」

例えば、朝起きて蛇口をひねれば水が出ます。学校へ来れば、教室は整えられ、給食の時間には温かい食事が用意されています。これらは決して魔法ではありません。

夜明け前から水を管理している人、物流を支えるドライバーの方、朝早くから食材を刻む調理員さん……。私たちの生活は、直接会うことのない数えきれないほど多くの人たちが、それぞれの場所で、自分の責任（役割）を全うしているからこそ成り立っています。



※このイラストはAIで作成しました。

○子どもたちが学ぶ「貢献」の形

学校生活も同じです。一人ひとりが係の仕事をし、掃除を行い、互いに挨拶を交わす。一つひとつは小さな行動かもしれませんが、しかし、その「自分の役割を果たす」という積み重ねが、クラスの安心感を作り、学校という社会を動かしています。

子どもたちには、「自分もまた、誰かの日常を支える大切な一人である」という自覚を持ってほしいと願っています。自分の仕事や誰かの笑顔につながっていると気づいたとき、それは大きな自信と、他者への感謝の気持ちに変わるはずです。

○保護者の皆様という「最大の役割」

そして、何より忘れてはならないのが、保護者の皆様の存在です。毎朝子どもを送り出し、体調を管理し、励まし、温かい家庭を築く。それは時に、誰からも評価されない孤独な役割に感じられることもあるかもしれませんが。

しかし、その「当たり前」の継続こそが、子どもたちの安心の土台であり、学校教育を支える力強いエンジンです。皆様がそれぞれの場所で役割を果たしてくださっているからこそ、私たちは教育活動に邁進することができます。

「おかげさまで、今日がある」そんな感謝の気持ちを、子どもたちと共に大切に育んでいきたい。今、改めてそう強く感じています。